

「ちょっと頭を打ったくらいで、大騒ぎをするかね」「くびいと言って、いつも泰然としていたものだ。が、高齢者ともなれば、そうしてもおれない。

頭を打った後、普通に話をしていた人が、やがて、意識がはっきりしなくなり昏睡状態になることがある。トーク&デテリオレート(T&D)という。最初は小さかった頭の中の出血が大きくなったり、傷ついた脳が腫れ上がってきたりする。すでに手遅れということも稀まれではないのだ。

いやなこと、高齢者は、このT&Dを起こしやすく死亡率が高いようだ。加齢とともに、筋力が低下し、バランスも悪くなって転びやすくなる。頭を直接打たなくても、高齢者の頭の中は出血しやすく、脳は傷つきやすい。脳も血管も、若い人に比べて弱くなっている。そのうえ、高齢者化社会になって、脳梗塞や心房細動などの患者さんが増え、血管サラサラの薬を飲むひとが増えた。おかげで血栓や梗塞はできにくいが、出血するし止血りにくくなってしまう。

その血液サラサラの薬には、抗凝固薬と抗血小板薬の2種類がある。日本頭部外傷データベースの解析では、2015〜17年で、高齢者で頭部外傷患者の約30%が1種類または両方を服用していたという。この割合は、ますます増えていくと予想される。とすれば、T&Dの患者さんも増えていくというのか。

おっと、そんなに怖がってもらっては、こちらが困る。ただ、血液サラサラの薬をのんでいる患者さんが頭なごぶついたら、すぐに医療機関へ行くよう勧めるキャンペーンもあるのだ。ことに高齢者は、早めに頭のCT(コンピュータ断層撮影)検査くらいは受けたほうがよいかもされない。その際、飲んでいる薬の名前を忘れてもよいが、お薬手帳は持ってきてほしい。

(石黒修三二二いこへろくにニック・脳神経

外科医…17北國新聞掲載)